

研究紀要

第 109 集

開発的カウンセリングの考え方と実践に関する研究(Ⅰ) ……………	濱田 正晴 1
－「生きる力」を育む具体的な手法の提案－	古田 昇
学校カウンセリング研修の在り方に関する基礎的考察 ……………	小林 宏 13
－学校心理学および学校カウンセリングの概念を巡って－	
「生きる力」を育む国語科授業への提案 ……………	細島 昌大 19
「生きる力」を育む算数科の指導 ……………	森本 寿文 25
－よさや楽しさを味わわせる指導の在り方－	
小・中・高等学校 算数・数学科 教育課程研究 ……………	山本 雄幸 31
	常陰 則之
	寺村 雅守
マルチメディア、インターネット時代の情報教育について ……………	上谷 良一 41
郷土のヤナギを追って ……………	橋本 光政 47

平成 10 年 5 月

兵庫県立教育研修所

は じ め に

教育基本法が制定され約半世紀が過ぎました。これまで教育が果たしてきた役割には大きなものがあります。その反面、今日の教育界には様々な課題が山積しているのも事実です。

第15期中央教育審議会では「生きる力」をはぐくむ教育の重要性がうたわれました。今こそ、人格の完成という教育の目的をしっかりと見据え、社会の変化に対応した学校教育を創造することが求められています。

当教育研修所では、当面する教育課題に視点を当てながら、所員一人一人が調査・研究を行っています。本紀要には、所員の研究のうち、グループ研究2編、個人研究5編を収めました。これら研究が学校での教育実践のお役に立てば幸いです。本研究について、率直なご批判、ご指導をお願いします。

最後になりましたが、調査、研究にご協力いただきました皆様に対して厚くお礼申し上げます。

平成10年5月

兵庫県立教育研修所長

辻 重五郎

研究主題 「生きる力」をはぐくむ学校教育の創造

1 研究の経緯

平成9年度から、全国教育研究所連盟第16期共同研究がスタートした。近畿地区の府県・指定都市の教育センターが連携して推進委員会を設置し、当教育研修所に事務局を設けた。今、教育に求められている「生きる力」をメインテーマに、共同研究の研究主題を「生きる力をはぐくむ学校教育の創造」と設定した。

当教育研修所内の研究活動も、本県の教育課題を念頭におき、全教連第16期共同研究の研究主題を共通主題とし、その主題に迫る具体的なテーマを掲げて研究に取り組むことにした。

2 研究主題設定の理由

子ども自身が自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する。このような活動をとおして、よりよく問題を解決していこうとする能力を培っていく。激しく変化する社会においては、このような資質や能力がより必要とされてくる。

さらに、心の教育の重要性が叫ばれる中、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力も、これからの教育において、特に育成されなければならない重要な課題である。

当教育研修所では、本県教育の課題や全教連第16期共同研究の趣旨を念頭におき、学校教育において、これら「生きる力」を育成するための具体的な方策を提言、調査研究するという観点から、「生きる力をはぐくむ学校教育の創造」を共通の研究主題に設定した。

3 「生きる力」をはぐくむ3つの視点

「生きる力」をはぐくむための学校教育の創造について、次の3つの視点から研究を進めた。

- 社会の変化に対応する学校教育の在り方をはじめとする教育の今日的な課題についての研究を深め、新しい学校像、新しい教師像を探る。
- 共生の視点に立ち、自己の確立や社会性の育成などを支援する教育について研究する。
- 個が生きる学習、共に高めあう学習をとおして、学習意欲を高めるための指導の在り方について研究する。

開発的カウンセリングの考え方と実践に関する研究（Ⅰ）

－「生きる力」を育む具体的な手法の提案－

高校教育研修課 指導主事 濱田 正晴

義務教育研修課 指導主事 古田 昇

要旨

変化の激しい、先行き不透明な時代にあって、たくましく生き抜いていくためには、子どもたち一人一人に「生きる力」を育むことが必要である。しかし、具体的な方法となると、暗中模索であるのが現状ではないだろうか。

一方、カウンセリングと言えば、従来、問題を抱えた一部の子どもを対象とする治療的なカウンセリングを中心に考えられてきた。

そこで、本稿では、学校で「生きる力」を育むための具体的方法として、すべての児童生徒を育てる「開発的カウンセリング」の基本的な考え方と、その手法としての「構成的グループ・エンカウンター」を提案した。

後半には、小・中・高等学校における教科・道徳・特別活動の展開例を提示した。

はじめに

中央教育審議会は、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」の2次にわたる答申¹⁾を行い、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことを提言した。また、現在、第16期中央教育審議会において、「幼児期からの心の教育の在り方について」審議されているところである。

本県においては、大震災や児童生徒の生命に係る痛ましい事件を踏まえながら、子どもたちに生きる力を育む教育懇話会「子どもたちに生きる力を育む（まとめ）」²⁾（平成8年8月）、心の教育緊急会議「心の教育の充実に向けて（まとめ）」³⁾（平成9年10月）が出された。前者では、「豊かな人間関係づくりを促す」「子どもたちの成長を援助する教師となる」ことなどが提言され、後者では「子どもたちの生き方の根底には、人間関係が深く関わって」いることが指摘されている。

このように、「生きる力」は「心の教育」と深い関わりがあると言えよう。

当研修所においても、カウンセリング関係の講座を担当する者を中心に研究を重ね、平成8年度には、カウンセリング関係講座の体系化を図り、開発的カウンセリングの研究を始めた。9年度には、「小・中学校 生きる力を育む開発的カウンセリング講座」「高等学校 生きる力を育むホームルーム経営講座」等の講座を新設した。また、これら講座の実施と平行して、開

発的カウンセリングの考え方の整理と実践に向けての提案を目的としたグループ研究を開始した。

本稿は、その第1次報告として、次の2点を中心に記述した。

- ・「開発的カウンセリング」の基本的な考え方を整理する。
- ・「構成的グループ・エンカウンター」の進め方を記述するとともに、具体的な展開例（小・中・高等学校）を提示する。

研究をこのような方向に進めたのは、以下のように考えたからである。

- ・確かな「生きる力」を育むためには、開発的カウンセリングの考え方に立つとよいのではないかと。
- ・その具体的な手法としては、構成的グループ・エンカウンターが有効であろう。
- ・実際の授業で生かしてもらうために、「開発的カウンセリング」や「構成的グループ・エンカウンター」などの考え方や方法をわかりやすく示したい。

なお、本稿の執筆に当たっては、各学校で気軽に実践していただくことを何よりも重視した。一人でも多くの先生方に実践してみようと思っていただければ幸いである。

また、入門書としてあるいは研修資料としても活用されることを期待して、次ページ以下は、あえて本紀要の統一の書式とは異なったレイアウトにしたことをお断りしておきたい。

1. 開発的カウンセリングって何？

—たとえば、こんな場面で—
授業が終わり職員室へ向かう途中
「先生、ちょっと相談が…」
「今、忙しいから後にして！」
二人はそれだけの会話で分かれた。
先生は、次の空き時間すべきことが山ほどあり、1秒でもはやくそれに取り掛かりたいと思っていた。

私たちにも覚えのある場面ですね。あとになって、
《もっとカウンセリング・マインドを持って接していれば…。あの子は、これまでずっと悩んでいたことを、やっとの思いで相談してみようと声をかけてきたのかもしれないのに。》などと反省したことも。

確かに、もうすこしカウンセリングの素養があれば、違った対応もできただろう。

一方、私たちの目の前にいる児童生徒の大多数は、一見なんの悩みもなさそうで、個人的に声をかけてくることもない。カウンセリングとは無関係に見える。

この場合、「カウンセリング」とは、専門のカウンセラーが問題を抱えた児童生徒に対して相談室などの特別の場所で行うもの、と考えるのが一般的だろう。このような考え方を、以後「治療的カウンセリング」と呼ぶことにする。従来の学校カウンセリングはこのような治療的カウンセリングが中心であったし、今後も、その重要性は増すことはあっても減ることはないだろう。

そのような治療的カウンセリングとは対照的なカウンセリングを考えた人がある。アメリカの教育心理学者D. H. ブラッカー⁴⁾だ。彼の提唱したカウンセリング (developmental counseling) は、中西・神保によって「開発的カウンセリング」と訳されている。

この開発的カウンセリングの考え方は、いわゆる「普通の子」をも含めてすべての児童生徒を対象とするものだ。

ブラッカーによれば、**開発的カウンセリング**とは、成長過程でだれもが遭遇する発達上の問題の解決を助けることにより成長を促進するカウンセリングである。すべての子どもが最高の能力を発揮できるように援助することを目標としている。

もうすこし詳しく言えば、すべての教師が、問題の有無にかかわらずすべての児童生徒に対して、学校生活におけるすべての場面で、学校生活におけるあらゆる時間に、面接だけでなく、教える、モデルになる、一緒に行動する、などあらゆる方法によって行おうとするものである。成長過程の中で誰もが出会う発達上の問題、それを援助しようとするものだ。

石隈利紀⁵⁾は、学校で教師の行う教育活動を、「援助サービス」と考え、教師は、「児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面、そして心身の健康面を加えて総合的に支援することで、『生きる力』を育てる教育が可能になる。」と述べている。そして、問題を抱えた一部の児童生徒だけでなく、すべての子どもを対象とする「一次的教育援助」の重要性を指摘している。

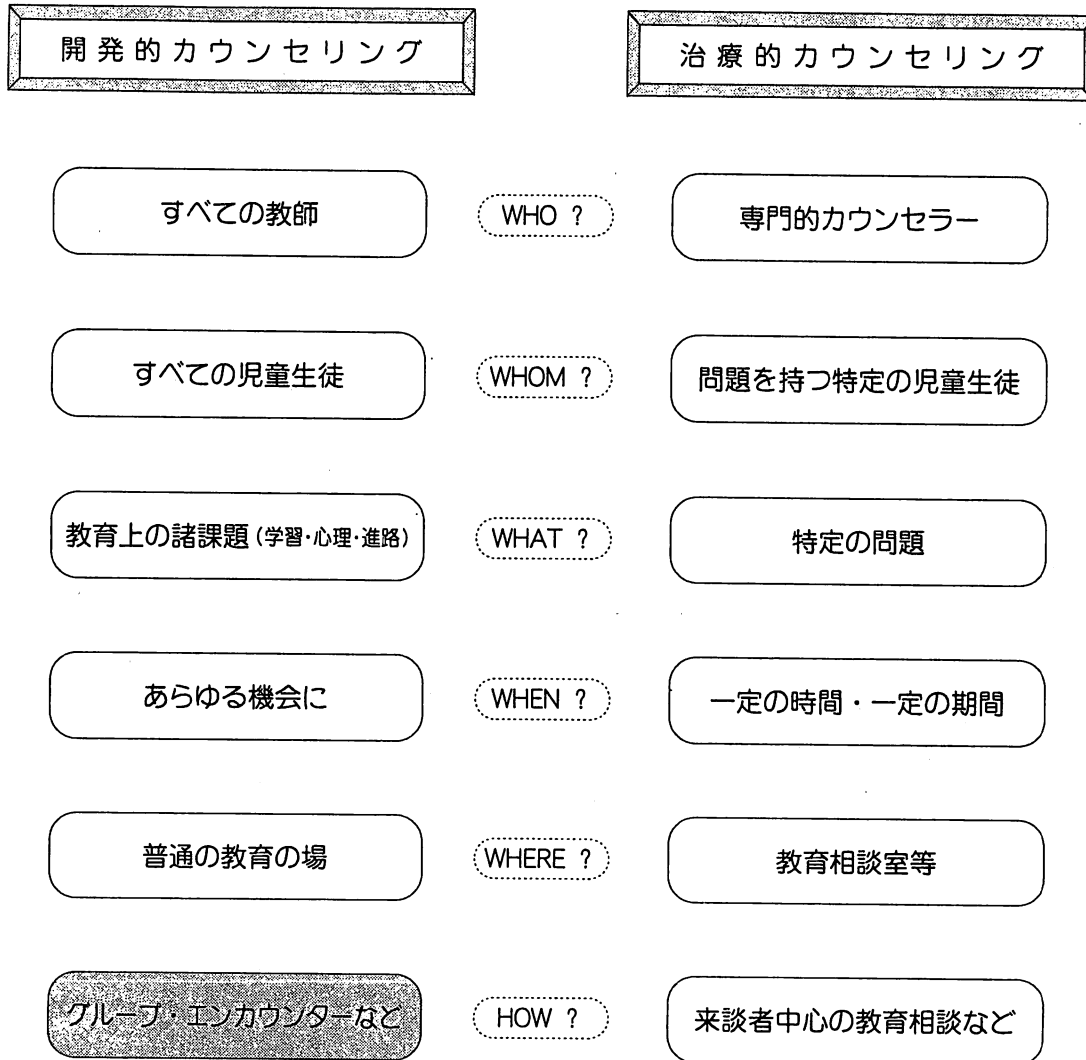
学校で一人一人の児童生徒に「生きる力」を育もうとするとき、「開発的カウンセリング」はひとつのキーワードと言えよう。

では、教室で多数の児童生徒を対象に開発的カウンセリングを行うとすれば、どのような手法があるか。

ここで、きわめて有効な手法と考えられるのが、「グループ・エンカウンター」である。

「グループ・エンカウンター」とは、「本音と本音で交流する」という意味で、アメリカのC. R. ロジャーズ⁶⁾によって創造された心理学的グループ・アプローチである。

以上をまとめると、図のようになる。



グループ・エンカウンターは、1970年頃、ロジャーズの元で実際に経験してきた畠瀬稔⁷⁾によって我が国に紹介された。当時は、非構成的なグループ・エンカウンターが中心であったが、やがて、國分康孝らによって「構成的グループ・エンカウンター」が提唱されるようになった。

「非構成的グループ・エンカウンター」⁸⁾は、自由討議を主たる内容とし、ルールの取り決めも少ない。10人前後のグループにファシリテータ（促進者）が1人つき、2～3時間を共に過ごす。これをセッションと呼ぶが、普通、数セッションを続けて行う。したがって、1泊2日から4泊5日ほどのまとまった時間を要する。

「構成的グループ・エンカウンター」⁹⁾は、1～数名のリーダーが「エクササイズ」と総称される作業や討論の課題を提示し、メンバーがこれに取り組みながら進められる。メンバーは数名からエクササイズによっては100名規模でも可能である。エクササイズは1時間から3時間程度で消化できるように構成されているものが多い。

國分¹⁰⁾も言うように、「今のところオールマイティのカウンセリング理論がないように、オールマイティのエンカウンターがあるわけではない」し、「非構成的グループ・エンカウンターがよくない」わけでもない。

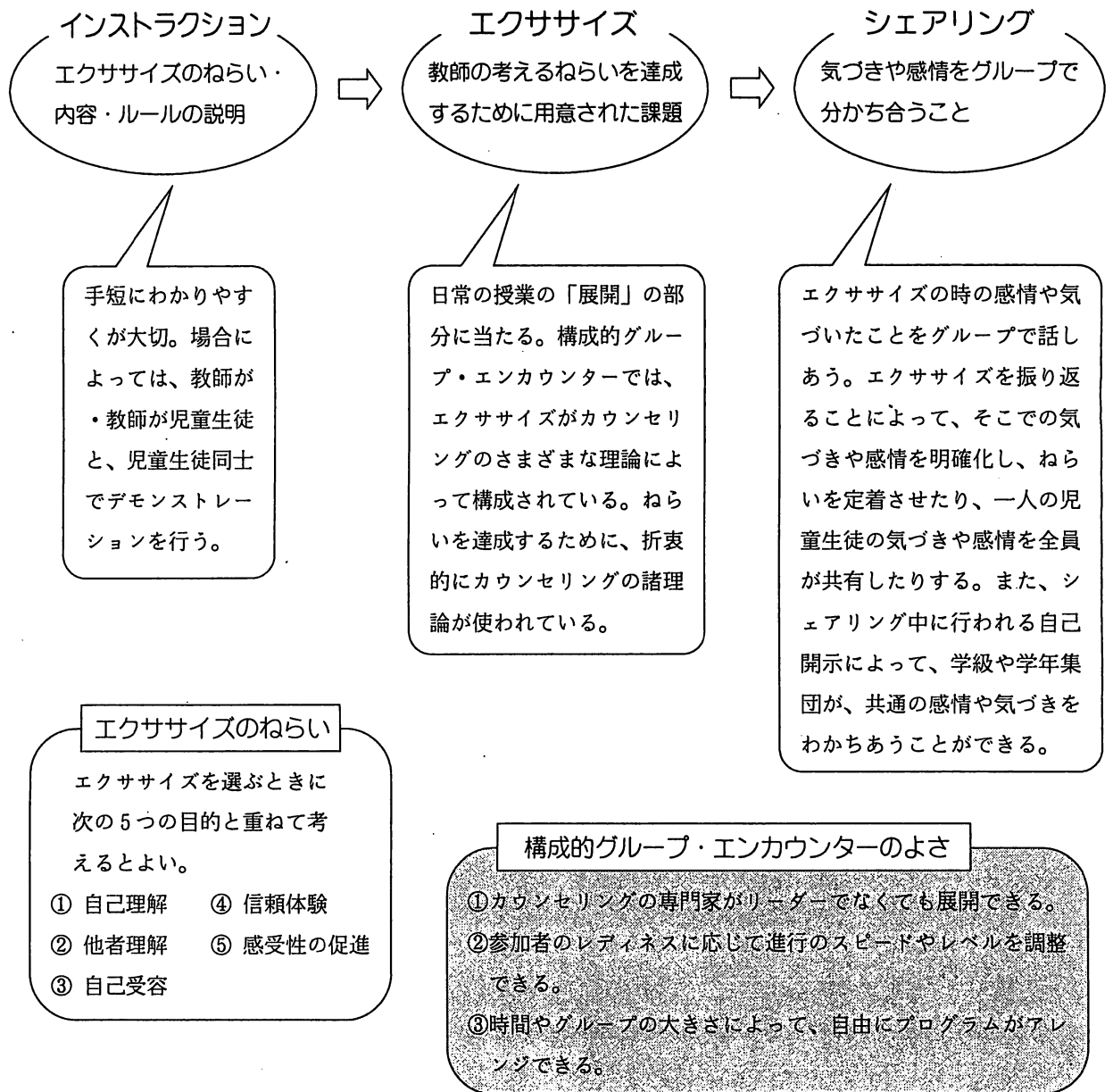
ただ、それほど専門的な訓練を経っていない教師が、学級全体を相手として、限られた時間の中で行う手法としては、構成的グループ・エンカウンターが最適だろうと、私たちは考える。

次ページから、構成的グループ・エンカウンターの進め方を述べていくこととしたい。

2. やってみませんか？ グループエンカウンター

2.1 構成的グループ・エンカウターの要素¹¹⁾

あまり難しく考えないで、以下の3要素が入っていれば、りっぱな「構成的グループ・エンカウンター」と考えよう。



ここで留意しなければならないことは¹²⁾

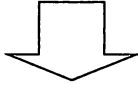
次々とエクササイズをこなすのが構成的グループ・エンカウンターであると思込まないことである。エクササイズを展開するときの思想が二つある。

思想の一つは、やみくもに「〇〇をせよ」と強制しないことである。もう一つの思想は、メンバーの幸福になる権利を尊重するという思想である。

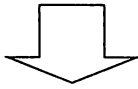
この二つの思想を技法化したものがインストラクションであり、シェアリングである。前者はメンバーの参加意欲を高める利点があり、後者はメンバーの思考・感情・行動を拡大・修正する機能を果たしてくれる。

2. 2 教室での流れ¹³⁾

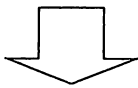
① ねらいと内容の説明



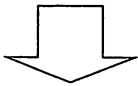
② ウォーミングアップ



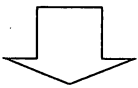
③ インストラクション



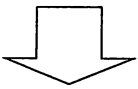
④ エクササイズ



⑤ シェアリング



⑥ 振り返り



⑦ まとめ

始めに、本時のねらいと大まかな内容を説明する。心の準備と期待を持たせるためであり、ごく簡単に済ませる。

リレーションづくりと心身の準備運動をする。自己紹介やだれもが楽しめるゲーム要素の強いミニ・エクササイズ。場合によっては、簡単な準備体操やマッサージも有効。エクササイズでグループに分かれるときは、この過程でグループ分けをする。簡単なふりかえりや教師からのフィードバックを行う。

エクササイズのねらい・内容・ルールを説明する。手短かにやりやすさが大切。場合によっては、教師が・教師が児童生徒と・児童生徒同士でデモンストレーションを行う。

ここでは、児童生徒の活動が中心になる。インストラクションがしっかりできていれば、教師は、学級全体の動きを見守る姿勢が大切。ルールの徹底（悪ふざけや冷やかしをしない、など）と時間の管理をしっかりすること。

児童生徒は、エクササイズでの気づきや感情を振り返り、グループで話しあう。雑談に終始したり、「楽しかった」などの第1次的な感想に止まったりしないで、体験が「経験」にまで高まるように留意する。

振り返り用紙に本時の感想を記入する。

児童生徒のよかったこと、場合によっては次に気をつけてほしいことをフィードバックする。教師自身の今のここでの感情を表明することもよい。

これはあくまでもひとつの代表的な流れを示したものだ。実際には前ページの3要素を核に、児童生徒や学級の実態に応じて、自由に発送するとよい。

3. 構成的グループエンカウンターによる授業展開

3.1 小学校「道徳」¹⁴⁾

- (1) 対象 6年生
 (2) 題材 たもつ君の忘れ物
 (3) ねらい

- ・日頃学級内でよく起こる「忘れ物」を素材として、自らの日常を振り返り、節度ある生活を考える。
- ・相手の立場に立って考え、互いに信頼し支え合うことの大切さを学ぶ。

- (4) 準備物 資料プリント

「たもつ君の忘れ物」

たもつ君はまた教科書の忘れ物をして先生から注意を受けています。みんなは「またか」という顔をしてたもつ君を見ている。その時、たもつ君と仲のいいこうきち君がまり子さんに向かって言いました。「まり子さんが見せてやればいいじゃないか。」こうきち君のそんな言葉を聞いて、突然とし子さんが立ち上がってこういいました。「私は見せなくてもいいと思うわ。隣の席だから見せればいい、なんていうものじゃないと思うの。たもつ君は毎日まり子さんの教科書を見ているのよ。自分で持ってこようとする気が足りないんじゃないかと思うわ。こんなことをずっと続けていたら、たもつ君は『これでいい』って思っちゃうんじゃないかしら。」

たもつ君は下を向いていました。そして先生は腕組みをしたまま、じっととし子さんの意見を聞いていました。

山口理著「道徳 生きた資料の活用」国土社 1995年

- (5) 展開

場面	活動内容	留意点
ねらいの説明 ウォーミング アップ	教師：本時のねらいに簡単に触れる。 教師：各自資料プリントを黙読するように指示する。(全員が読み終わったら)とし子の意見について賛否を考えさせ、こうきちの視点からも考えさせる。	・集金、学習プリント、学用品等について想起させる。 ・2つの対立する意見が出ると予想される。
インストラク ション	教師： とし子さんの意見は正しい、言い過ぎた、の2つの意見が出てきたようだね。それでは、それぞれの立場になりきって、グループ内で討議してみよう。 前にやったディベートの反対尋問のような部分だけをやってみよう。	・何人かに発表させる。 ・机を寄せ合って6人程度ごとのグループを作る。 ・両方の立場とも考えさせる。
エクササイズ	[ミニ・ディベート] 教師： グループで半分ずつに分かれて、「とし子さんは正しい」「とし子さんは言い過ぎだ」のそれぞれの立場になりきって8分間、討議して下さい。 生徒： ミニ・ディベート 第1ラウンド 教師： それでは、立場を逆にして討議してみよう。 生徒： ミニ・ディベート 第2ラウンド 教師： 両方の立場で考えたから、今度はどうすればいいかを、グループ全員で話し合ってみよう。	・討議が感情的にならないように。 ・時間がきたら、討議を打ち切らせる。 ・時間がきたら、討議を打ち切らせる。
シェアリング	生徒： 考えを出し合う。 教師： 第1ラウンド、第2ラウンドで考えを出し合う話し合いをとおして、感じたこと、気づいたことを話し合ってみよう。 生徒： 率直な感情を話し合う。	
振り返り	教師： エクササイズの各場面で感じたことを自由に書くように指示する。(意見を言っている時、聞いている時、自分の意見を友達に支持された時、反対された時の気持ちなど)、	・討議の続きにならないよう。 ・「振り返り」用紙に記入させる。
まとめ	教師： 友達の立場を考えて発表できた児童や友達のいいところを生かす考えの児童を称賛する。	・意欲が実践につながるようまとめる。

3. 2 小学校「算数」¹⁵⁾

- (1) 対 象 3年生
- (2) 単元名 あまりのあるわり算
- (3) 単元の目標
- ・乗法九九を1回用いた余りのある除法について、乗法や減法との関係を理解し、余りの意味が分かる。
 - ・余りのあるわり算と生活とを結び付けて考え、生活に活用できるようにする。
- (4) 指導計画(7時間)
- 第1次 あまりのあるわり算のしかた(5時間)
- 第2次 あまりを考えて(2時間)
- (5) 本 時 第1次の第1時
- (6) 本時の目標
- ・操作的学習活動をとおして、分ける意味(等分除・包含除)を再確認し、余りのあるわり算につなぐ。
 - ・生活から生じる事象を課題にすることにより、生きた学習になるようにする。
- (7) 展 開

場 面	活 動 内 容	留 意 点
ウォーミングアップ	教師：教師の合図で、3人組み、5人組み、4人組みとグループを作る。(最後の4人組みを1グループとし着席させる。1グループのみ3人となる。)	・遊びとして終わらないように簡単に切り上げる。
インストラクション	教師： <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> この学級には31人のこどもがいます。旅行に行つて旅館にとまろうと思います。 旅館には、5人泊まれる部屋が9つ準備してあります。どのように分けるといいでしょう。 最初は一人で考えよう。いく通りも考えられるとすばらしいです。2通りくらい考えたら、グループの友達と話し合ってみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えやすいように絵や図を使って考えるとよいことを知らせる。 ・学級人数に応じて、課題の数値を変える。
エクササイズ	教師：児童：一人一人で考える。 児童：小集団思考により考えを広める。 <ul style="list-style-type: none"> ・5人ずつに分けると、6部屋(5人)+1部屋(1人) ・9部屋に分けると、4人ずつ(4部屋)+3人ずつ(5部屋) ・上記の変形パターンが多様に出てくる。 教師： <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> グループで話し合ったことをもとに、友達の考えのいいところについて発表しよう。 </div> 児童：考えを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書く。 ・友達の考えのいいところを見つけよう。 ・自分の考えと対比させながら話させる。
シェアリング	教師： <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 自分で考えているときの気持ち、友達と自分の考えを出し合っているときの気持ち、自分の考えを友達に言ってもらった時の気持ち、などを話し合ってみよう。 </div>	・「振り返り」用紙に記入させる。
ま と め	教師：自分の考えと友達の考えを比較して発表できた児童や他の児童が考えないようなことを考えた児童等を称賛する。	・意欲が次時につながるようにまとめる。

3. 3 中学校「学級活動」

(1) 対 象 1年生

(2) 場 所 体育館

(3) ねらい

- ・入学時の緊張感を解きほぐす。
- ・お互いを理解しあい信頼体験をとおして、クラスの一員としての喜びを味わう。
- ・聞くことの難しさを体験する。

(4) 展 開

場 面	活 動 内 容	留 意 点
ウォーミングアップ	<p>[ペアづくり] 生徒：目を閉じ、3分間、教室内をできるだけ広く無言で歩く。</p> <p>生徒：全体で感想を述べ合う。</p> <p>生徒：同じように目を閉じ、3分間歩く。今回は、人と出会った（ぶつかった）時、言葉以外で相手とコミュニケーションを図る。</p> <p>教師：3分経過したところで、次に出会った人とペアを作るように指示する。全員がペアになったところで、目を開けるように指示する。</p> <p>生徒：全体で感想を述べ合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に発言できる雰囲気づくりを心がける。 ・生徒数が奇数のとき、最後に一人残った時点で、すぐに教師がペアになる。
インストラクション	<p>教師：質問する人、される人を決め、5分間相手について質問する。5分経過したところで、役割を交代するよう指示する。質問に対する答えをメモしないこと、答えたくない質問には答えなくてもよいことを伝えておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに質問しあった後に、ペアの人を紹介するという事は、この時点では言わない。
エクササイズ	<p>[友達の新しい発見] 生徒：5分間、ペアに質問し、された生徒は答える。 生徒：役割を交代する。</p> <p>[友達を紹介しよう] 教師：近くのペアと一緒に、4人1組になるよう指示する。</p> <p>教師：5分間、ペアになった人のことを色々聞いたので、次は、今、グループになった2人にあなたのペアを紹介してあげましょう。3分間は紹介できるかな。</p> <p>生徒：順番を決め、それぞれペアを3分間、他の2人に紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5分ごとに時間を知らせる。
シェアリング	<p>教師：みんな、自分のこと、友達に知ってもらったかな。紹介されている時、どんな気持ちだった？</p> <p>生徒：全体で感想を述べ合う。（質問している時やされている時、紹介している時やされている時の気持ちなど。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3分ごとに時間を知らせ役割を交代するよう指示する。 ・エクササイズのそれぞれの場面での気持ちが気軽に出せるように。
ま と め	<p>教師：生徒の活動や発言を振り返り、よかったところや教師の感情を話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が友達の発言をあたたく受け入れられる雰囲気づくりを心がける。

3. 4 中学校「英語」

- (1) 対象 2年生
- (2) 単元名 PROGRAM 4 Soccer in Brazil (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
- (3) 単元の目標
- ・ブラジル人の生活や文化の学習をとおして欧米以外の国々にも関心を向ける。
 - ・ペレの生き方に学ぶ。
 - ・次の用法を理解し活用する。
従位接続詞 (when、thatなど) ・不完全自動詞 (become、lookなど) ・授与動詞 (show、giveなど)
 - ・名前の由来について学び、人としての共通の願いや思いに気づく。
- (4) 指導計画 (6時間)
- 4-1 1時間 4-2 1時間 4-3 1時間 4-4 / WORKSHOP 3時間
- (5) 本時 4-4 / WORKSHOP 2時間目
- (6) 本時の目標
- ・従位接続詞 that などを使って自分の名前の意味などを紹介できる。
 - ・名前に込められた思いをとおして、人としての共通の願いに気づき、自分や友達を大切にしたい思いを育む。
- (7) 準備物 クラス名簿 (生徒配布用)
- (8) 展開

場面	活動内容	留意点
ウォーミングアップ	[グループづくり] 生徒：興味のある国の名前を英語で言いながら教室内を動き、同じメンバーを捜す。グループ名は Japan、Korea などになる。(この手法のテーマとして好きな食べ物や動物なども可。要は1つのカテゴリーを決める。)	・人数に多少がある時はメンバーの多いグループを分けたり、少ないグループを合わせたりする。
インストラクション	[私の名前] 教師：デモンストレーションを行う。 [例] Do you know my first name? (Students : Yes, it's Noboru, isn't it?) Yes, my first name is Noboru. But I don't know why my parents named it for me. The Chinese character, Noboru means rising higher. It is used, for example, as the sun rises in the east. So, I hope that it's bright and cheerful around me all the time. Now, please introduce your first name like me.	・ALTがいる時は、対話を行い、ALTの名前の意味も紹介する。 ・身近な人の名前を紹介し興味づける。
エクササイズ	生徒：次のような言語材料や単語を使い自分の名前の由来や意味をノートに書く。 ・ ~ means (that) ・ ~ stands for ・ ~ named after 生徒：各班の中でお互いに紹介しあう。 [友達の紹介をしよう] 生徒：各班で名前を紹介する人、される人を決める。 生徒：紹介する人は、される人の名前を言わずに次のように全員に紹介する。 His (or Her) first name means that etc 生徒：他のグループの人はクラス名簿を見ながら、紹介内容から予想される名前を当てる。	・適宜、生徒にアドバイスを行う。 ・生徒の能力に合わせ、班の全員が班内で紹介できるよう留意する。(紹介文の量は決めず、1文でも意味が通じればよい。) ・紹介する人数は進行状況により適宜決める。各班の紹介数は同じにする。 ・当たらない時は、当たるようにヒントを出す。 ・発言しやすい雰囲気づくりを心がける。
シェアリング	生徒：紹介された人は、友達が自分の名前を紹介している時や他の班員が自分の名前を当てた時の気持ちなどを話す。	
まとめ	生徒・教師：授業全体の感想を話し合う。	

3. 5 高等学校「ホームルーム活動」¹⁶⁾

- (1) 対象 2年生
 (2) 時間 L. H. R「人権学習」
 (3) 場所 被服実習室
 (4) ねらい

- ・マジョリティとマイノリティを擬似体験し、その際感じたことを話し合うことにより、差別について考える。
- ・自分の権利について考えることにより、権利の重さを実感し、他人の権利の大切さに気づく。

- (5) 準備物 「ディスクリマドット」：カラーシール(6色、枚数はアンバランスに：青3、赤5、白10、黄8、茶5、緑9 計40枚)

「権利の熱気球プリント」(生徒配布用)

※「権利の熱気球」プリント

- ①みなさんは今、熱気球に乗っています。この熱気球にはみなさんと一緒に1個2kg A～Gの7つの“権利”が乗せられています。
- ②突然、熱気球が高度を失い、降下し始めました。大変です。このままでは墜落してしまいます。熱気球の降下をくい止めるためには、“権利”を捨てて熱気球を軽くしなければなりません。さあ、あなたならどの“権利”から捨てますか？
- ③まず、自分一人で「放棄してもよい“権利”」から「できるだけ長く持っていきたい“権利”」までを考えてください。最初に捨てた権利から順々に()の中に番号を入れていきましょう。

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| A () 家族や人を愛し、愛される権利 | E () プライバシーを守られる権利 |
| B () いじめられたり、命令・服従を強制されない権利 | F () 好きな仕事に就き、働くことのできる権利 |
| C () 十分な食べ物ときれいな水を与えられる権利 | G () 祝福されて結婚できる権利 |
| D () 自分の意見を人に聞いてもらう権利 | |

この時間の感想

(6) 展開

場面	活動内容	留意点
ねらいの説明 ウォーミング アップ	教師：本時のねらいを簡単に説明する。 「イエス・ノー」クイズ。 生徒：目をつぶり、「イエス」ならじゃんけんのパー、「ノー」はグーで挙手する。	・「生まれ変わっても今の自分に生まれてきたいと思う人？」など。 ・その間に、生徒の背中にカラーシールを貼る。
インストラク ション エクササイズ	：目を開け、何も話さずに、同じ色の者どうしグループを作るように指示する。 「ディスクリマドット」(はじめ、とまどうが、やがて身振りで教え合い、グルーピングが完了する。)	
シェアリング	生徒：できたグループで、感想を話しあう。	・グループができるまでの気持ち、他グループと比較しての気持ち。
インストラク ション エクササイズ 振り返り まとめ	教師：プリントに、まず、個人で順位を付け、次に意見を出し合って、グループ毎の順位を決めるよう指示する。 教師：個人→グループ→クラス、と場が広がっていくよう進める。 生徒：「この時間の感想」に記入する。 教師：本時の全体について、簡単にまとめる。	・エクササイズの意義を再確認する。

3. 6 高等学校「国語」¹⁷⁾

(1) 対 象 3年生

(2) 科 目 「国語表現」

単元名 話し方講座『よりよく話す』

(3) 単元の目標

・自分の意見をわかりやすく話し、人と協動的にディスカッションできるコミュニケーション能力を培う。

(4) 指導計画 (16時間)

第1次 基礎編 (7時間)

「相手意識・目的意識を明確に持ち、明確にわかりやすく伝える」ことを学習目標とし、種々の実践トレーニングを通じて、ゲーム感覚で音声言語活動の基礎力を身につけさせる。

第2次 応用実践編 (9時間)

「パブリックな場でのコミュニケーション能力の伸長をはかる」ことを目標として、3分間スピーチを実施する。その際、「話す」だけが浮き上がることのないよう、次の2点に配慮する。

①グループ別のスピーチ予行を設け (本時)、そこで相互批評やアドバイスをさせる。

②クラス全員をスピーチ審査に参加させ、コメントさせる。

この過程で、学習者は、「話す」と「聞く」を有機的に関連させながら活動していくことになる。

(5) 本 時 第2次の第3時

(6) 本時の目標

・グループ内でスピーチを実演しアドバイスし合ったり、他人のスピーチを聞いたりすることによって、改善点を明確にし、お互いに知識や技能を分かち合い高め合う

(7) 展 開

場 面	活 動 内 容	留 意 点
ねらいの説明	本時のねらいを簡単に説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「よい話し手はよい聞き手が育てる。」 ・5人ずつの8グループを作る。 ・「話し合いもまた大切な言語活動。」
ウォーミングアップ	[腹式呼吸] 生徒：前回配布のプリントを見ながら、全員で行う。終わったら、グループ毎に机を寄せ合う。	
インストラクション	生徒：グループ内で、順番に3分間、スピーチ (事前に準備している「私のお勧め」「青年の主張」「思い出の品」から一つ) を行い、聞き手は、「〇〇さんへ一言アドバイス」を書くよう指示する。一巡したら、相互批評をする。	
エクササイズ	[ショー&テル] 生徒：話し手は、実物を示しながら、3分間スピーチをする。聞き手は、よく聞き、話し手へのアドバイスを考える。	
シェアリング	生徒：「〇〇さんへ一言アドバイス」をそれぞれの話し手に渡し、話し手としての感想、聞き手から話し手へのアドバイスを自由に話しあう。	
振り返り	生徒：実際に話してみた感想、グループ内のアドバイスで気づいたことを、「振り返り用紙」に記入する。	
次時の予告	教師：今の「振り返り」を元に「スピーチ」原稿を手直しすること、次時からクラス全体の前でスピーチの本番を行うことを予告する。	

おわりに

以上、「生きる力」「心の教育」と関わって、「開発的カウンセリング」の考え方と「構成的グループ・エンカウンター」の手法について述べてきた。

私たちは、児童生徒一人一人に「生きる力」を育むために、「開発的カウンセリング」の考え方、「構成的グループ・エンカウンター」の手法がきわめて有効であり、この考え方と手法は、小・中・高等学校等あらゆる校種の、教科・道徳・特別活動のどの領域にも取り入れることができると考えている。

しかし、本稿は、あらゆる校種のすべての時間をカウンセリングの時間にすることを提案しているわけでは、もちろんない。学校や児童生徒の実態に応じて、「気軽にエンカウンター」してみてもどうか、という提案である。

当研修所の開発的カウンセリング関係の講座を受講された先生方からも、「思いきってやってみたら、生徒が変わった」「新たな発見があった」「自分が変わった」などの声が多数寄せられている。本稿をお読みくださった先生方も、機会を見て、授業に取り入れていただけるとたいへんありがたい。

とはいえ、新しいことにひとりで取り組むことは、おおきな困難を伴うかもしれない。

当研修所としても、10年度には、「小・中・高等学校 実践に生かす開発的カウンセリング（研究）講座（1泊2日×3回）」、「小・中・高等学校 開発的カウンセリング入門（出張）講座（県内3か所、各1日）」を新設した。また、本稿をホームページに掲載するとともに、将来は、実践記録を交換しあえる場の提供も考えていきたい。

そして、それらの実践を踏まえ、第2次報告をまとめたいと考えている。

最後になったが、武庫川女子大学 島瀬稔教授には、エンカウンター関係の講座に関して、貴重なご助言をいただくとともに、講師として実際の指導にもあたっていただいた。ここに記して、感謝の意を表したい。

【注】

- 1) 中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第1次答申）」（1996）
同（第2次答申）（1997）
- 2) 子どもたちに生きる力を育む教育懇話会「子どもたちに生きる力を育む（まとめ）」（1996）
- 3) 心の教育緊急会議「心の教育の充実に向けて（ま

とめ）」（1997）

- 4) D. H. ブラッカー『開発的カウンセリング』（中西信男・神保信一訳）国土社（1972）参照。
- 5) 石隈利紀「論説 学校教育のあり方を考えるー予防的・開発的援助サービスの意義に焦点をあててー」（東京都立教育研究所「教育じほう」（1994. 4）所収）参照。
なお、小林宏「学校カウンセリング研修の在り方に関する基礎的考察」（本紀要、別掲）参照。
- 6) C. R. ロジャーズ『エンカウンター・グループ』（島瀬稔・島瀬直子訳）ダイヤモンド社（1973）
- 7) 島瀬稔『エンカウンター・グループと心理的成長』創元社（1990）参照。
- 8) 村久保雅孝「学校におけるエンカウンター・グループ」（松原達哉編「教職研修実践ハンドブック 学校カウンセリングの考え方・進め方」（1994. 6）所収）参照。
- 9) 同上
- 10) 國分康孝「まえがき」「構成的グループ・エンカウンター」の意義と課題」（國分編『構成的グループ・エンカウンター』誠心書房（1992）
- 11) 岡田弘「新しい指導法の提案ー構成的グループ・エンカウンターの特徴と必要性ー」（國分康孝監修・片野智治編集『エンカウンターで学校が変わるー中学校編ー』図書文化社（1996）所収）参照。
なお、姉妹編として「ー小学校編ー」もある。
- 12) 國分康孝「インストラクションとシェアリングの思想」（同上）
- 13) 川崎知己「教室での流れ・手順ーエクササイズの導入からまとめまでー」（同上）参照。
- 14) 当所指導主事・森本寿文、原案。
- 15) 同上
- 16) 「平成9年度 高等学校 生きる力を育むホームルーム経営講座」受講者、県立北条高等学校教諭・山岡美穂、原案。
- 17) 「平成9年度 高等学校 国語科教育講座」の受講者、県立加古川北高等学校教諭・高田真理子、原案。